

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」への理解を深めるための園内研修

2019年 武蔵野東第一・第二幼稚園

はじめに

幼稚園教育要領に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明記されるようになったことで、環境を通して総合的に発達していく子どもの姿を、多様な視点から捉える必要があることや、小学校教育へとつながる10の姿への意識を高めていくことが大切だと考えた。そこで本園では、園内研修を通して育ってほしいの姿への理解を深めていくことにした。

方法

学年をグループとして、それぞれに研修の方法を考え、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」への理解を深めるための取り組みを一年間実践していく。

<年中グループ>

一つ一つの育ってほしい姿はだんだんと育っていくという観点から、4歳児における「姿」を探る。

<年長グループ>

①保育の一場面を動画撮影し、その中の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を出し合う。

②10の姿について画像を出し合い、具体的な保育場面での姿を共有する。

★①②を通して、多様な姿を捉えられるようにする。

(※年少グループは別テーマの実践研究を進めました)

年中グループの実践

①時期ごとに10の姿の中から「言葉による伝え合い」に視点を置き、その視点に関わるエピソードを集める



②「子供の育ちや学び」「教師の援助や視点」をそれぞれのエピソードから抜き出し、付箋に記入



③付箋から時期ごとに考察し、まとめる

《4～5月》『わー！！』



《子供の姿》

- ・言葉だけでなく身振りや動作も使って伝えようとする姿が見られる
- ・自分の思いを伝えたい！という気持ちが強い
- 「見て見て！」「聞いて聞いて！」
- ・教師に話したり、認められたりすることが嬉しい

《教師の援助・姿》

- ・気持ちや思いを受け止め共感する
- ・代弁する
- ・伝えやすくなるような環境を整える
- 一緒に会話を楽しむ
- 「話して良かった！」「楽しいな！」という気持ちを育む

《9月》『う～んと、う～んと』



《子供の姿》

- ・自分なりの言葉で話そうとする
- ・話すことが楽しい。
- ・伝えることが嬉しい
- ・友達や教師の話聞いて、自分の経験と結びつけ、自分の話をしようとする

《教師の援助・姿》

- ・話したい気持ちを大切に
- ・見守る、受け止める
- ・お互いに興味を持って話を聞く環境を整える
- 「それから？」
- 「誰と一緒にいったの？」
- 「続きを聞いてみよう」など
- お互いの話を聞きあうように促していく

《1～2月》『あのね』『なあに？』『そうだね！』



《子供の姿》

- ・考えを出し合う
- ・会話のやり取りを楽しむ
- ・興味をもって友達の思いや考えを聞くようになる
- 関係性が築かれることで互いに思いや考えを伝え合えるようになってくる

《教師の援助・姿》

- ・子供のやりとりを見守りながら必要に応じて会話を整理するなど
- ・皆で話題を共有する場を設けるなどして伝え合う楽しさを味わえるようにする
- 友達と気持ちが通じ合う喜びや心地よさを感じられるように
- 言葉で表現する面白さ、楽しさを感じられるように

年長グループの実践

<実践①> 10の姿の一つ一つについて画像を出し合い、それぞれ視点の具体的な姿を多様に共有していく。

健康な心と体（4月の取り組み）



- 新しい友達に興味をもって関わろうとしている。
- 体を動かす気持ちよさを味わっている。
- 自分のやりたいことを見つけて夢中になっている。

自立心（5月の取り組み）



- 自分たちでやろうとする。
- 次に使う人のことを考えて行動しようとする。
- 自分たちで方法を考えてやってみようとする。
- 運動会の競技に真剣に取り組み、達成感を味わっている。

<考察>

新しいクラスや環境になり、年中時に親んでいた友達を頼りにしながらも、新しい友達に関わろうとしたり、生活に主体的に意欲的に取り組もうとする姿があった。年長に進級した喜びから「健康な心と体」に関わる姿が多く見られたように感じた。

<考察>

“年長だから”という自覚や自信から、様々な場面で自ら取り組む姿が見られている。友達と一緒に挑戦したり、一人では難しいことは友達と協力したりするなど、自立心が育まれるには友達の存在が大きく関係しているように感じた。

<実践②> 動画をもとに、育ちの姿を捉える
～制作のシーンのなかの「思考力」と「協同性」を視点にしなが～

<動画の風景>

6月：「電車を作ろう」とクラスで話し合い、ダンボールや牛乳パックなどを使って造り進める中、電車の運転席の窓を作ろうと、数人の子どもたちが集まり、窓のサイズにビニールを切っている。ところがハサミの切れ味が悪く切り進められないなかでの試行錯誤・・・

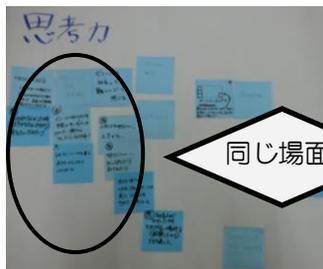


こっち押さえておくれ

上手く
きれるかな

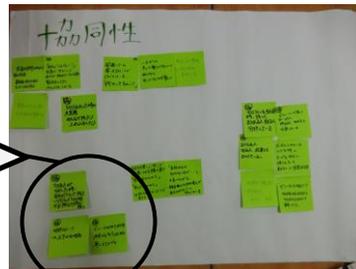
思考力

- 素材と道具の特性、相性を知る（ハサミとビニール）
- どうしたら切れるのか考えて行動する。
→ 反対側からも切り始める
- 思うようにいかない原因に気づく。
（ハサミの切れ味など）
- やってみたいという思いからいろいろと試そうとする。



協同性

- 友達の姿に興味をもち自分も加わったり、見守ったりしている。
- みんなと同じ目的をもって取り組む楽しさを感じている。
- 切れない時に、反対側から（両側から）切ろうとする。
- 押さえる人、切る人、アドバイスをする人など、役割を分担しようとしている。



同じ場面！

<考察>

「反対側から切る」という1つの行動にも、視点の持ち方によって“思考力の育ち”とも“協同性の育ち”とも捉えられる。→ 同じ場面の中に複数の育ちがあることを具体的に把握。

年長グループの実践① ～持ち寄った画像から～

協同性



みんなで力を合わせて



道徳性・規範意識の芽生え



相手の気持ちを受け止めて



みんなで順番を考えて



社会生活との関わり



思考力



数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚



《考察》

人間関係が安定している年中の終わりまでに、だんだんと育ってきた「言葉による伝え合い」の土台が、年長に進級した新しい環境のなかでも、「伝えたい」「伝えることが楽しい」という心情や意欲につながっているのだと考える。

まとめ

研修を通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的な子供の姿として捉えて教師皆で共有したり、同じ場面を見ながら姿を探ったりすることによって、それぞれにイメージしていた姿にとどまらず、多様な視点で捉えることのきっかけとなった。これからも、子供たちの姿を豊かな視点をもって見守り支えていくために研修や実践を重ねていきたい。